

食べる、遊ぶ

青森県大連ビジネスサポートセンター

ビジネスアドバイザー（常勤） 劉 瑛

青森県大連ビジネスサポートセンター ビジネスアドバイザーの劉瑛（リュウ・エイ）です。この中国・大連市 現地レポートでは、大連市に住む人たちの生活の様子や最近の旅行など、私が感じる「中国の今」をご紹介します。

第2回目となる今回は、大連市民に人気のある2つのサービスについてご紹介します。

私が、日系ビジネスコンサル会社を経営しているからでしょうか、先日、主人に「豪華そうに見えて食べ放題の日本料理店をどこか知らない？」と尋ねられました。

理由をよく聞くと、彼の友達の呉さんが、山東省煙台（山東省最大の漁港を持つ港湾都市。山東半島の北岸に位置し、遼東半島の南岸にある大連市とは渤海をはさんで向かい合っている。）からのお客さんを日本料理でおもてなししたいらしく、良い店を紹介して欲しいといているとのことでした。

驚いたのは、宴席を設けようとしている呉さんは日本語がまったく分かりませんし、仕事も運輸業務やら工場経営など中国国内を対象とした商売で日本とまったく縁のない方です。一方、招待を受ける相手方、山東省の方も同じく大きな融雪剤メーカーの工場長で、日本へは間接的に輸出しているものの、呉さん以上に日本文化に対する馴染みはまったくなさそうです。どう見ても日本料理を好みそうではないので「どうして馴染みがなさそうな日本料理で招待するの？ 中華料理、特に海鮮料理の方が喜ばれるのではないの？」と主人に聞きました。すると「最近、我々もお客さんの招待や友達との食事をする時には、日本料理の食べ放題は人気だよ！」と意外な回答でした。

その訳というのは、まず料金に手頃感があるようです。中国人が良く食べに行く日本料理店の食べ放題は、かなりの料理を一斉に出してテーブルの上が見事にいっぱいになります。一人400元以内（1元＝15.8円として6,320円）という料金設定は、中華の海鮮料理と比べてもそれほど変わらないと言えますし、その料金で、肉、魚、刺身、寿司、うに、えびなど種類豊富な料理の食べ放題（人数がある程度になるとあわびを一人1個プラスしてくれるサービスをしている店もあります）と、ビール、日本酒、焼酎、ワイン、ジュース、烏龍茶など充実した飲み放題は、かなり飲めるようであれば、むしろ安くなるでしょう。

次に、日本料理はやはり高級感があります。それに、食べ放題というのは、何を注文すればいいかを悩むことなく、日本料理の好きなものを集めて食べられるのは確かに楽です。以上の理由から、中国では最近ますます日本料理の人気が高まっています。

「ビビビ……」、この文章を書きながら、携帯へメッセージが流れ込んできます。「微信（日本のLINEのような無料通話・メールアプリ）」を携帯に入れてから、友達や隣家の方などの生活を伺うのがとても楽しくなりました。隣家の一家が海辺で洋食、友達一家が重慶へ豪華遊覧船、北京にいる友達夫婦が下の子を連れてヨーロッパなどなど、なかなか会えないはずの遠い友達とは毎日会っているような感じになりますが、一方で、隣家とは「微信」を通じてチャットで会話しているためか、散歩する際に会っても、かえって話題がなくなり、微妙な雰囲気。

インターネットによって世界が小さくなりましたが、人と人の距離は近くなったり、遠くなったりもしますね。



大連市内の公園の風景